

第3回守山市地域包括支援センター運営協議会 議事録（要旨）（案）

会議名	第3回守山市地域包括支援センター運営協議会
開催日時	令和7年3月13日（木）午後2時から午後3時10分まで
場所	守山市役所3階33・34会議室
委員出席者	清水会長、藤本委員、番川委員、小川委員、廣田委員、兼松委員、則本委員、淵上委員（順不同）
委員欠席者	小西委員、門田委員
事務局	（健康福祉部）理事 高橋、次長兼所長 池田 （地域包括支援センター）課長補佐 川島、主任保健師 松岡 （南部地区地域包括支援センター）所長 淵田 （中部地区地域包括支援センター）所長 山口 （北部地区地域包括支援センター）所長 岩本 （介護保険課）課長 小井 （長寿政策課）課長 木村、係長 青木、担当係長 徳田
会議の次第	1 開会 2 協議事項 （1）令和7年度地域包括支援センター事業計画・収支計画について 3 報告事項 （1）令和7年度守山市地域包括支援センター運営協議会の年間スケジュールについて
会議資料	・令和7年度地域包括支援センター事業計画・収支計画 南部包括 資料1-1 中部包括 資料1-2 北部包括 資料1-3 ・令和7年度守山市地域包括支援センター運営協議会の年間スケジュールについて 資料2
公開・非公開の別	☒ 公開 ☐ 非公開
傍聴者	なし

1 開会

＜事務局より開会＞

＜委員の出席者数の確認＞

10名中8名の出席により、本会議は成立。

2 協議事項

(1) 令和7年度地域包括支援センター事業計画・収支計画について

事務局	資料1-1、資料1-2、資料1-3をもとに報告。
則本委員	事業計画に守山市社会福祉協議会と一緒にと書いていただき、社会福祉協議会としても地域包括支援センターと一緒にやっていきたい。 南部包括の7ページ目について、民生委員・児童委員と介護支援専門員の「地域課題について考える会」はどのように実施しているのか。 北部包括の8ページ目について、家族介護者支援の、男性介護者による集いの場について、社会福祉協議会も共働して実施しており、柔軟な取り組みだと思うので、報告してもらいたい。ハードルが高い部分はあるが、関係機関の了承を得たうえで、全域でできることだと思う。 また、3圏域の事業計画はあるが、基幹の事業計画はないのか。基幹の来年度の計画はどうか。
事務局	南部包括： 昨年度から守山学区で開始。地域で考えたいテーマを聞き、出てきたテーマを元に、民生委員・児童委員と介護支援専門員に集まっていいただき、グループワークをしている。民生委員・児童委員と介護支援専門員それぞれの業務を理解し、まず繋がっていただくことを目的として始めた。3か月に1回定期開催している。民生委員・児童委員、介護支援専門員としてどのような支援・連携ができるかという意見を出していただいている。 参加者としては、民生委員・児童委員はそれぞれグループ分けをされており、グループ毎に参加していただくとともに、その時のテーマによって、該当になりそうな民生委員・児童委員や介護支援専門員へ個別に声掛けをしている。 北部包括： 北部包括としては、ずっと男性介護者の集いを作ろうと考えていた。その背景としては、男性介護者からの虐待が多いということがあった。男性の相談先を考える中で、家族介護者教室を事業としてやっている中で、教室の後に男性介護者向けにカフェをしたが、カフェには残ってもらえない状況があり、守山市社会福祉協議会の生活支援コーディネーターに相談した。男性に集って頂くためには、お酒が必要という意見があり、社協と共に飲み会をしたいという事になった。行政の立場としては、お酒の場の提供は難しく、北部の母体である、ゆいの里に相談し実施に至った。参加者5名が集い開催。予算はなかったため、飲食物については各自持参。送迎は社会福祉協議会が担った。好評であり、次は夏頃に企画予定。

清水会長	そのような取り組みを北部包括が実施したということで、それぞれのセンターの独自性があると思うが、基幹としては、広げたほうが良いか等、どのように考えているか。
事務局	以前から、男性介護者および男性が地域で孤立しがちという話があり、基幹型と圏域包括が共働して「いきいき男性プロジェクト」を数年間実施してきた。令和7年度からは、地域に身近なところで、各圏域で独自性を生かした取り組みをしていただくため、各圏域で実施していくことになっており、地域課題に応じて開催していただきたいと考えている。 基幹の事業の計画については、近年は、第2回の実績報告の際にお示しさせていただいていた状況。基幹では全市的な取り組み等させていただいているため、また次回からは計画を報告させていただく。
渕上委員	予算書について、南部・北部で、人件費が減っているのはなぜか。通常、職員数・体制に変動がなければ、待遇面から減額になることは考えられない。また、中部は、予算書通りに執行すると、年度末の繰越金が10万円程度しか残らず、委託料を早々に振り込まなければ次年度初期に資金ショートを起こしかねない。どのように対応されるのか。
事務局	委託料については、年度当初ではなく、毎月実績に基づいて翌月に振り込んでいる。資金ショートする可能性という件については、法人さんに努力していただいているところと認識している。
番川委員	男性介護者もしくは、突然独居になった男性が、食事の準備ができないという人がいるため、来年度地域で、男性向けの料理教室を開催予定。ぜひ、北部包括にも支援をいただきたい。 また、もう1点、来年度からも一りーカーの目的地がかなり拡大し、車のない高齢者も買い物に行けることに感謝している。
廣田委員	法人としても、男性向けの料理教室を実施している。法人だけでは、なかなか人が集められないので、ぜひ番川委員の企画とも連携していきたい。 認知症施策について南部包括では今から商業施設に出向いてアウトリーチを行うとあり、一方中部包括では、それは既に実施しており、それでは繋がらないから、「もう少しケースを中心にやっていく。」というような話をされていたと思う。その中で、地域の独自性はあって良いと思うが、3圏域で、やって効果的だったやり方等を基幹包括が旗振りをするすることで、よりよい方向にできるのではないかな。
事務局	認知症施策については、各圏域に認知症地域支援推進員を増員配置した。長寿政策課内で認知症地域支援推進員と認知症初期集中支援チームが入る中で、テーマに応じて藤本先生にもご指導いただきながら、定期的に情報共有の場を設けている。取り組みについては優先順位を付けた形でお示しさせ

	ていただいた。 アウトリーチについては、今年度南部包括と共に、三宅稲葉、大島の自治会を回らせていただいた。個別訪問の中では、健康づくり、介護予防の情報や、色々な健康講座等の紹介を行う等、様々な取り組みをしたもの。このような取り組みも他の圏域に広げられたらと考えている。
清水会長	基幹センターの役割について質問があったが、市の業務丸ごとではなく、各地域に合った運営をするために委託しているという趣旨があると思う。圏域の役割が不明確になるという傾向もあると思うが、調整役を積極的にやる方が良いのか、そのあたりについてはどう考えているか。
事務局	きめ細やかな市民へ直接的な対応は圏域包括にお願いしている状況。市、基幹包括の役割としては、市の方針を示していくこと、3圏域の調整役、必要な場合の後方支援が大きな役割だと考えている。意思疎通を図りながら今後も進めていきたい。
小川委員	南部介護サービス事業者協議会として出席しており、他市町の会議にも主席をしている。来年度から、地域包括支援センターの事業にかかる評価指標が見直されるという話がある。評価指標の見直しに伴う評価方法等の変更等、市の方向性はどうか。この評価によって交付金が左右されるため、そこが遅れると、来年度の予算に影響してくるのではないか。事業計画の見直し等となると作業が増え、現場も混乱し、地域の高齢者にも影響があると思われるため、早急に考える必要がある。
事務局	評価指標の見直しについては、国から通知が来ている。内容としては、アウトプットを設けなければならない等の見直しがある。今の計画の中では、反映できておらず、年度途中で変更等していくことになるかと思う。他市にも状況を確認しているところで、見直していく必要があると考えている。
則本委員	評価指標の変更があるのであれば、臨時開催をしてでも、こちらの協議会に共有すべき。どのように変わるという通知があるのか、共有してもらわないことには、協議会としての判断が持てない。
事務局	また内容を整え、どういう方向性で行くのか検討し、臨時開催も含めて会長と相談させていただく。
清水会長	直接関わっていないので分からないが、欧米で実施されているアウトプット指標への転換段階的に実施していくのだと思う。イギリスでは、アウトプット指標によって交付金を変動させるという風に、社会福祉事業に対する評価の指針として使われており、それを導入しようとしていると思われる。そのため、情報共有をしっかりとお願いしたい。
兼松委員	少し話はズれるが、初めて聞いて調べる際、地域包括支援センターの情報になかなかとり着かないという状況がある。何度か事業所に相談があり、

	地域包括支援センターを紹介するためにパソコンで調べながら対応するも、なかなか見つけられなかった。情報のない人が、市のホームページを見ても簡単にたどり付けるような工夫が必要。
会長	供給側ではなく、利用者側がどのようにアプローチしていったら良いかという視点で、アクセシビリティを整えていく必要がある。
藤本委員	患者さんを通じて、圏域包括にはたくさん関わっていただいている。地域ケア推進会議でも出てきた、ごみ問題や多頭飼育の問題、個別会議で出てきたものの集約等、小さい一つの事例から拾い上げて施策にするという形になってきている。 国の政策については、以前大阪で実施していたモデル事業であり、アウトプットによる評価だが、実施内容がしっかりしていれば、評価できると思う。今までやってきたことがあるので、評価をしていただきたい。 また、現在、すこやか健康だより等には載っているものの、どこに相談したらいいか、すぐにわかる状況ではない。見せ方の工夫が必要。加えて、全員が知ることは難しいため、どこに相談しても最終的に地域包括支援センターにつながるような体制にしていきたい。いろんなルートがあってよいと思う。

3 報告事項

(1) 令和7年度守山市地域包括支援センター運営協議会の年間スケジュールについて

事務局	資料2をもとに報告。
-----	------------